

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2015年9月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第567号

NHKBSプレミアムの「額縁をくぐって物語の中へ」(不定期)は異色の美術番組です。案内人がCGアニメーションで再現された名画のなかで、画中の人物や動物たちと対話しながら、絵の仕掛けやメッセージを紹介していくのです。

この番組に出会ったとき、わたしは聖書もこんなふうには読みたいとおもいました。現代の読み手や解釈者としての強い自己意識から自由になつて、まるきり聖書の世界に身を投じてしまえたなら、そこに生きる人びとは何を語ってくれるでしょうか。

たとえばのことですが、ヨブ記に潜入できたとしたら。かつて大江健三郎さんは、自らの作品について、「(私は)メルヴィルが『白鯨』のエピソードに引用した『ヨブ記』の『我ただ一人のがれて汝に告んとて来れり』を、自分の信条とするようになった。」(私という小説家の作り方)と書かれたことがあります。それは、ヨブならぬ現代の悲劇を伝えることを使命とした小説家の覚悟であったとおもいます。

災難を主人に伝える者の使命感は、ヨブの悲劇をどんなふうに捉えたでしょうか。聖

書という額縁をくぐってみると、苦難そのものが比喩や象徴であることを越えて語り始めるかもしれません。

レフ・マイエフスキ監督映画「プリューゲルの動く絵」(The Mill and the Cross, ポーランド・スエーデン二〇一一年)は、一六世紀フランドルの画家プリューゲルの代表作「十字架を担うキリスト」を題材としながら、その額縁を見事にくぐり抜けています。

見えない場所のこと



財団理事・関西運営委員
中村 信博

この絵を鑑賞する者の視線は、まず右下に描かれた悲しみに沈む母マリアとその一行に奪われてしまうでしょう。そこは、構図のもつとも手前に位置しますが、同時にピエタとも呼ぶべき母の姿は、無数に描かれたどの人物よりも気高く繊細に描かれているように見えるからです。

いっぽう、十字架を担ぐイエスは絵のほぼ中央に描かれているのに目立ちません。受

難物語に多少通じていれば、右手上方に荒涼と拡がるゴルゴダの丘や、母マリアとは反対の方向にいるキレネ人シモンらしき人物などを先に見つけてしまうかもしれません。映画は、屹立した岩山の上に立つ風車小屋の謎とともにこの絵の意味をつぎつぎと読み解いていきます。なんの利

便も考えられない孤立した場所。風を待つ風車は示唆的です。いえそれよりも、イエスもマリアも、どうして一六世紀のフランドルに姿を見せたのでしょうか。キレネ人も聖書から飛び出してきたように見えます。受難の道行きは時空を越えて宗教改革期のヨーロッパの人びとに見守られているのです。いったいなぜこんな荒唐無稽ともおもえる絵が成立するのでしょうか。

映画はやがて、十字架を担ぐイエスが描かれた場所について独自の推理を語りだします。絵の真ん中なのに気づくには注視が必要な場所。それがイエスに与えられた場所でした。わたしはそれをあえて「見えない場所」と呼んでみたいとおもいます。額縁をくぐりぬけたときにだけ見えてくる場所です。

転じて、「一人の子どもの手を取って真ん中に立たせ」(マルコ九章三六節)、祝福されたイエスのことを考えてみましょう。単純に無垢や清纯が称揚されているのではありません。まるで子どもたちの場所が見えているか、という声が聞こえてくるようです。この国の子ども以下の世帯で暮らす一八歳未満の子どもの割合は一六・三%(二〇一二年厚労省)と報告されています。六人に一人の子どもたちが貧困のなかに生きているのです。

関西活動センターでは、長く子どもたちを見守り、寄り添ってこられた坪井節子さん(カリヨン子どもセンター理事長・弁護士)をお招きして、フォーラムを計画しています(二月一四日)。ともに「見えているか」との声を分かち合えればと願っています。

(同志社女子大学芸芸学部教授)

関東活動センター

●関東フォーラム「今日的課題」

「自死」に遭遇した人への慰めとは
—牧会の現場から 第2期—

キリスト教カウンセリングセンター相談室長 賀来 周一さん

6月8日(月)〜11月9日(月)(全5回)

会場 日本聖書神学校



不意に、電車が急停車する。ざわめく車内。手にした端末の画面に指を走らせて情報収集に集中する人たち。しばらくして車内にアナウンス。三つ先の駅で人身事故が起きた、この電車はしばらく運転を見合わせます、発車時刻は情報が入り次第……ざわめきは不機嫌さを伴って大きくなった。私は腕時計を見つめて嘆息し、携帯電話を取り出

ているのに、それがもはや日常風景と化しており、ことによつては交通の妨げとしか感じられない。通勤電車のテロップは、今日も遠い路線の駅で起きた人身事故の情報を、絶えず流し続ける。ああ、私に乗っている電車には関係ない、よかった。一年に二万五千人……日本におけ

る、自死者の公表数である。

多いのか少ないのか、にわかに想像できない数だが、これを十年繰り返せば二十五万人。中堅都市がひとつ消える。

ゼミの講師である賀来周一先生(キリスト教カウンセリングセンター相談室長)は、数字をあげ、現実をあげて、静かに語り始めた。六月から五

回の予定で組まれた「自死の問題を考える—牧会の現場から—」のゼミには、最大十三名の受講者が集う。場所は日本聖書神学校の教室である。ゼミの性格上、秘密保護の観点から対象者は各教会で牧会に携わる教師、神学生に限定されている。かなり遠方からの

受講者もあり、自死に関する知識の共有、体験の分かち合いの場が、いかに牧会者に必要とされているかを改めて確認させられる。八月を除き、六月から十一月まで、「関係者の関わり」、「葬儀・式典での注意」、「牧会上のダメージとそこからの回復」、「死の向こう側への希求」をテーマにして、講義とデイスカッションを行う。午後二時から四時

まで、密度の濃い二時間である。教会に関わる者、とりわ



け牧会者にとつては、自死は身近な存在である。決して他

人事として通るわけにはいかない。しかし、非常に共有しにくい事柄である。受講者は牧会者と神学生であると先に述べたが、各々の立場も経験もまったく違う。自死という

出来事に真っ正面から向き合っている。かなり遠方からの受講者として持たずとも今後の牧会生活に必要な知恵と知識を得ようと真摯に通う者もいる。賀来先生が毎回、最新のデータに基づいた資料を交えてお話をし、それを踏まえ

て受講生同士でデイスカッションをするのだが、それぞれが人と分かち合いたい事柄は決して少なくない。一人の受講生の話を聴くだけでも、考えの重みや経験してきたこととの厚み、また先の見えない課題を感じ、二時間はあっという間に過ぎていく。当たり

前のことであるが、自死をめぐるとつずつの出来事をきれいに結論づけることはできないことを、傍らで聴きつつ思う。同時に、結論づけることが困難なものを分かち合い、聴き合え、新しい道さえ時に見いださう場がいかに得難いものであるかも。

平日の昼間に開講されていることもあり、全回参加は容易くない。また、先につらつら書いたように、立場も経験も全く違う受講生が集い、すべてに時間を割ききれないほどの話が生じてくるため、大きくはない集団ながら、なかなか全員が均等に話せない現状もある。しかし、自死と向き合い、寄り添うべき者と共に寄り添うための大切なヒントが、短い時間のなかにたくさん込められている。どのような展開を見せるのか、私も集う方々と共に最後まで見ていきたい。



関西セミナーハウス活動センター

●2015年度「開発教育セミナー」第1回(協力プログラム)
「開発教育入門セミナー」
Think Globally, Act Locally
「足もと」と「世界」をつなぐ

2015年6月28日(日)
会場 京都市国際交流会館
主催 (独)国際協力機構 関西国際センター(「JICA関西」)
(公財)京都市国際交流協会



6月28日(日)、開発教育入門セミナー(JICA関西主催)にて、午前・午後各2つのワークショップが開催された。ここでは、「ベトナム戦争と原発輸出」(24名参加)についてレポートする。はじめに、ベトナムの日常

生活を切り取った写真を使い、その中のベトナムの人々になったつもりで仕事や思いを紹介しあった。ベトナムは北部の山岳地帯から南部のメコンデルタに至る多様な地形・風土を持ち、85%を占めるキン族と53の公定少数民族が生活しており、多様な人々の暮らしが共感的に理解できた。

次にベトナムへの日本からの原発輸出をめぐる様々な立場(ベトナム国内・日本・タイ)の意見を賛成・反対に分類し、理由をキーワードで整理した。これによって、メディアでは紹介されない現状がわかり、原発輸出を全体的に把握できた。

最後に写真と年表でベトナム戦争について学んだ。そこに至るアジア太平洋戦争時には日本軍占領下200万人が餓死する大きな犠牲を強い。韓国では1990年代からベトナム戦争下の韓国軍の戦争責任を問う市民の活動が展開され、彼らは人間同士が理解し合うために調査と対話が続けた。振り返りでは、参加者がこれからのどのように関わっていくのかを考えることができた。

●2015年度 修学院フォーラム「福祉」第1回
「希望の介護—認知症を考える」中島塾
『塾』によるこそ

京都府立医科大学名誉教授 神経内科医師 中島 健二さん
2015年7月11日(土)



認知症の患者は現在500万人、10年後には800万人にもなると言われている。かつて高齢者介護の現場で働き、認知症の患者と日々接しておられた講師の中島医師は、介護者やスタッフの介護

有吉佐和子の「恍惚の人」やシェークスピアの「リヤ王」といった文学に見られる高齢者の尊厳と人権について語られた。「病気であろうとなかろうと、能力がであろうとなかろうとそんなことには関係なく、すべての人に命の尊厳を

神は与えた」という捉え方について、聖書や憲法や、出会われた事例の中から具体的に提示された。

一方、認知症患者を持った家族への提言として、1、逃げない、しかし対決しない。2、自分だけで何とかしようと思わないで助けをもとめる。3、口だけ出して、手を差し伸べない人を相手にしない。4、明日は我が身と思う、などが示された。

高齢者はますます増える傾向にある。そのために当事者と共にその家族を理解すること、施設やスタッフのリフレッシュが求められることなど広い範囲での講義であり、参加者の参加度も高かった。



プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書講座 2015「新しい聖書の学び」
「イエスの譬え話」に響く声(全10回)
講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑥10月13日⑦11月10日、火曜18:30~20:00

会場：早稲田教会ロビー
参加費：1,200円/学生500円
テキスト：『イエスの譬え話1』
共催：早稲田奉仕園

■関東フォーラム宗教対話I

「古典で読む20世紀 第II期」(全4回)
第4回「K.バルト『教会と国家I』(新教出版社)」

日時：11月27日(金)18:30~20:30
講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー
参加費：500円

■関東フォーラム「今日的課題」

「『自死』に遭遇した人への慰めとは一教会の現場から 第2期」(全5回)

講師：賀来周一さん(キリスト教カウンセリングセンター相談室長)

日時：④10月5日⑤11月9日、月曜14:00~16:00

会場：日本聖書神学校
参加費：1回2,000円
定員：10名(先着順、要申込み)

協賛：日本聖書神学校キリスト教研究所

■関東フォーラム宗教対話II

「『ことば』を届けるために 礼拝のためのボイストレーニング」(全5回)

講師：友野富美子さん(日本キリスト教団八王子栄光教会担

任教師、声優)
日時：9月28日~10月26日、毎週月曜15:00~17:00

会場：日本聖書神学校
参加費：3,000円(全5回分)
定員：20名
共催：日本聖書神学校キリスト教研究所

■関東フォーラム宗教対話III

「これでいいのか日本のキリスト教」

日時：11月7日(土)14:00~16:30
講師：森小百合さん((公財)日本YMCA同盟 学生YMCA専従スタッフ)

会場：早稲田教会ロビー
参加費：参加費1,000円、学生500円
共催：早稲田奉仕園

◆関西セミナーハウス 修学院きらら山荘
■能を楽しむタペ in 修学院きらら山荘 第25回 能『遊行柳』

日時：10月9日(金)17:30~
解説・出演：林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス
各定員：5名
能観賞料：2,000円/学生1,000円

■月釜 清心会

日時：10月11日(日)9:00~15:00 受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス
年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■2015年度 開発教育セミナー
第4回「歴史認識を鍛える~植民地、戦場の日本人」

講師：内海 愛子さん(大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター所長)

日時：10月3日(土)16:00~4日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス
会費：10,500円(1泊2食込)
オプション/フィールドワーク
「京都にも空襲があった~馬町空襲の跡地を訪ねる」

日時：10月3日(土)13:30~15:00
集合：京阪「清水五条」改札前(地下)

参加費：500円(移動交通費別途実費)

第5回「グローバル競争に左右されない暮らしを創る ~ゆとりと豊かさを実感できる社会へ」

講師：松平 尚也さん(NPO法人AMネット代表理事・百姓)

日時：11月7日(土)16:00~8日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：10,500円(1泊2食込)

■2015年度修学院フォーラム「いのち」

第2回「赤ちゃんがほしい!不妊治療の進歩は、本当に女性に恩恵を与えているでしょうか~産科医の立場から」

講師：川北かおりさん(西神戸医療センター産婦人科医長 周産期センター長代行)

日時：9月26日(土)13:30~17:30
会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円

■2015年度修学院フォーラム「福祉」

第2回「子どもたちに寄り添う~いじめ・虐待・非行の現場から~」

講師：坪井 節子さん(社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事長・弁護士)

日時：11月14日(土)13:30~17:30
会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円

賛助会費・寄付金報告

2015年6月1日~2015年7月31日
(順不同・敬称略)

◆関東活動センター 賛助会費

石川 憲彦 5,000
桃井 明男 5,000
飯島 隆輔 5,000
島田 治夫 2,500
吉田 豊 3,000
松本 誠 5,000
ランデス ハル 10,000

寄付金
大澤 英二 3,000
石川 憲彦 5,000
木岡 毅 5,000
林 律 5,000

神学生交流プログラム募金

汐碓 直美 3,000
萩原 好子 5,000

◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費

岩崎 裕保 5,000
古賀 暢子 5,000
藤井 伸枝 3,000
織田 雪江 5,000

井上 和子 5,000
細井 敏子 3,000
殿村 元一 3,000
真鍋 裕子 5,000
岸田 晃子 3,000
福留 順子 5,000
多木 秀雄 5,000
高寺 幸子 5,000
木下 寿子 5,000
中西 和樹 10,000
椿本 博久 5,000
高橋 壮二 5,000
奈倉 道隆 3,000

寄付金
小崎 眞 10,000
山藤 みどり 3,000
遠藤 勇 5,000
佐治 孝典 3,000
姫野 眞知夫 5,000
田沼 哲雄 3,000
酒井 大典 2,000
松原 千里 3,000
金山 顕子 3,020

以上、感謝をもってご報告申し上げます。

財団本部 http://www.academy-nippon.com
関東活動センター http://www.academy-tokyo.com
関西セミナーハウス
http://www.kansai-seminarhouse.com/
関西セミナーハウス活動センター
http://www.academy-kansai.org

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org